

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ヤックス都の杜
(ユニット名)	2F ユニット
所在地 (県・市町村名)	千葉県千葉市中央区都町 1283
記入者名 (管理者)	丸山 千枝子
記入日	平成 21年 2月 14日

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目		
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の運営理念があり、各ユニットの見やすい場所に掲示してある。	
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基く介護が出来るように、全体会議や申し送り時、入社時のオリエンテーション等に常に意識しながら取り組んでいる。	
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	行事や運営推進委員会、日々の面会の時に、家族や地域の方に、ホームの理念を理解していただけるように働き掛けている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩での、挨拶や会話等を通し、日常的な付き合いが出来るように努めている。	
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。諏訪神社のお祭りのお神輿をホームの中まで乗りいれたり、ホームの行事の夕涼み会にも参加してもらっている。	
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の体調不良や、職員不足等から、積極的な取り組みは出来なかった。	○ 地域の活動にも、積極的に参加していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員が評価を活かし、できる事から一つ一つ改善に向けて、取り組んでいる。	○
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告や話し合いを充分にしている。会議で出た意見には、職員全体で考え、対処し、サービスの向上を図る。	
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加の呼び掛けはしているが、参加はない。	

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な人には、活用できるように支援している。	○	研修等で、制度をよりよく学び、積極的に活用できるようにしたい。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	より多くの職員に研修を受ける機会を作り、意識の向上をはかり、虐待の防止をする。		
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に十分な説明を行っている。不明な点は何度でも、訊いていただき、理解、納得していただいた上で、契約の運びとなる。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成20年12月まで、介護相談員が来所していた。	○	相談員が来られないことで、外部に思いや意見等を伝える機会が減ることを家族にも知らせ、協力を頼んでいる。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度の近況報告を送付して、利用者の状況を家族に知らせている。面会時に近況を話したり、必要なときは連絡をとるようにしている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、代表者2名に苦情相談の窓口になってもらっている。ホームや行政の苦情相談窓口を見やすい場所に掲示している。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括マネージャーとして、本部とのパイプ役の職員がいて、職員の意見や提案を聞いて、反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況によって、必要と思われるときは、勤務を調整し、柔軟に対応している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	待遇面の見直しや働きやすい職場作りに関心掛けている。	○	
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保に心掛けている。研修に行けなかった職員にも、報告書を休憩室に置き、研修の内容が分かるようにしている。介護に役立つ書籍等も置いてある。	○	研修を受ける機会をなるべく多く持てるようにしたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、ネットワーク作りや、交流会で仕事の悩みを話し合ったり、行政への要望をまとめたり、勉強会をしている。	○	連絡会独自のグループホーム向けの勉強会や研修があるので、職員が順番に受けるようにしたい。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ゆっくり休憩できるように、休憩室の環境作りをしている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各々の努力や実績、勤務状況を把握し、待遇を良くする努力をしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接を行い、直接本人自身から、話を聞ける機会をつくり、不安を軽減する。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接や、電話等で、不安なこと、不明なこと、困っている事を相談できるよう機会をつくり、受け止める努力をしている。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、取り巻く状況等鑑み、ホームに入所することが必要とされる支援かどうかを見極める。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人も事前にホームに来てもらい、職員や他の入居者が過ごしている様子を見て、リビングで一緒に雰囲気を味わってもらう。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に家事や、レク活動をする事によって、できる事や、得意だったことを引き出すようにしている。職員も教えてもらうことが多い。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	その時の状況を話し、今迄の生活歴や、性格等も教えてもらいながら、一緒に本人を支えていく方法を考える。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を理解し、一緒に、利用者が安心して、穏やかに過ごせるように、考えて支えていく。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所付き合いがあった人、昔の同僚の方の面会を勧めている。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の助け合いがある。関係が悪い時は、見守りや、さりげなくカバーする。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	職員が、他の施設や病院に移った利用者にも面会に行ったり、家族が訪ねてくるのが自然に行われている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、どんなときも尊厳を傷つけないようにしている。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴を聴き取りしているが、その後も本人や家族との関わりの中で、これまでの生活の把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録に一人ひとりの1日の状況を書き、申し送りや連絡ノートで、職員全員が利用者の現状を把握できるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向を聞くと同時に、全体会議や申し送り、サービス担当者会議で、多くの職員の意見やアイデアを取り入れ、課題を検討しケアの方法を考えて介護計画を作成している。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身共に変動が大きく、現状に即した計画を作成する必要に迫られることが多い。都度、家族に状況説明し、話し合いをする。医療関係にも相談、指示をもらい、職員間でも、本人に最善のケアを考え、プランを作成する。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日つけ、情報を共有しながら、ケアの見直しに生かしている。	○	利用者の状態が日々変わっているので、介護した時に、気付いたこと、工夫して上手く行った事は、継続して申し送りしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて、介護用品や薬剤の購入を支援している。		

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や警察、消防と連絡を取り、協力しながら支援をしている。地域との関係も良好、協力的。	
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネや施設、病院のソーシャルワーカー、訪問看護ステーション等つながりを作り、他のサービスを利用するための支援が出来るようにしている。	
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡を取り、折に触れ、情報交換をしている。	
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、本人や家族の希望するかかりつけ医があれば、情報提供や、家族が付き添えない時の付添いをし、継続して受診できるように支援している。	
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい協力医療機関と提携しており、適切な診断や治療が受けられる。	
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一度非常勤の看護師がいて、日常の健康管理や衛生面の支援をしている。緊急時も相談できる。	
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、病院関係者、家族と一緒に話し合い、早期に退院し、ホームでの生活に戻るよう支援している。	
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、「重度化した場合における対応に係る指針」について、詳しく説明し、同意書に署名、捺印をもらう。終末期には、本人や家族、医療機関との連携を取り方針を共有し、チームで支援にあたる。	
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や医師、ホーム側とで、繰り返し話し合い、できる事、出来ない事の見極めをし、本人にとって最善の方法をチームで取り組み、支援する。	
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の不安、混乱、おびえを最小限にする為、事前に関係者間で十分な情報交換をし、対応を考えダメージを防ぐ。	

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>						
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	集団生活の中でも、一人一人の誇りや信念を大切にします。	○	記録は一定の場所に保管。個人情報の持ち出しは厳禁。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の力に合わせ、好きなこと、得意なことを引き出し、自分が過ごしてきた暮らしを思い出してもらい、穏やかに笑って暮らせるよう支援している。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の、その日の体調や、精神状態を見ながら、その人のペースを大切に支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分でできる人には、声掛けし、出来ない人には介助し、きれいになったことを誉める。	○	美容室に行けない人は、ホームに近くの美容院から来てもらい、散髪、セット。希望者には、ホームで髪染めもする。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる力に合わせて、職員と共に、調理、盛り付け、テーブル拭き、後片付けをしている。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を考えながら支援している。		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけ、その人の排泄パターンを把握し、合わせたトイレ誘導をしている。便意、尿意を表した時、見逃さず介助する。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間帯は決まっているが、その日の状況に合わせて、入浴の順番を換えて、入浴を楽しんでもらう。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状態に合わせて、休息を取るよう支援している。元気な人には、日中の活動を多くして、夜間の良眠に心掛ける。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を大切に、持てる力を活かし、他のひとのために役に立てる喜びを持ち、生き生きと生活できるように支援する。	○	年齢もさまざまな職員がいることによって、発想が異なるため、思わぬ力を引き出すこともある。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出の時の支払いは、自分たちで行っている。	○	買い物にいける機会を多くつくる。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけられるように支援している。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	重度化してきたため、揃って出かけることが難しくなってきた。職員と個別に出かけることが増えた。家族と共に外出することも勧められている。	○	嚙下困難な人でもデザートのようなものは食せるので、ファミリーレストランで、外の雰囲気を楽しむことができる。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用はいつでも可能。年賀状は、なるべく、自分で書き、家族に出すように支援。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問してもらっている。近所の方や昔の同僚も見え、現役の頃の様子も聞くことができる。		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を順次受講している。抽選で受けられない事もあるが、研修報告やレジュメのコピーで職員全員で、勉強し取り組んでいる。	○	新しい職員にも、身体拘束について教えていくようにしている。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、施錠しないが、門扉のみ、周囲の交通量が多く危険であるため、家族の要望も有り、施錠している。	○	トラック等の大きな業務用車両が多いため、門扉付近は危ない。散歩の時も、横道に入るまで非常に注意している。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は日勤リーダーが全体を見、職員間も声掛けしあいながら、利用者の状況を常に把握するようにしている。夜間は、夜勤者がリビングで待機し利用者の状況を見守る。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は目につかないところに保管してあるが、職員が一緒にいる時は刃物、針等も使用する。薬や、危険の洗剤等は隠す。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の心身の状況を把握し、申し送りや連絡ノート等で、職員が交代しても、途切れることなく、事故防止に取り組んでいる。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師指導による勉強会や、ビデオを見たりしている。実際に何度も急変を体験してきているので、その場でも、全員が対応できるように常に勉強している。	○	事故が起きたときの報告書を回覧し、対処方法や、事故防止を考えている。日誌等でも日頃のヒヤリハットを赤で記入し、注意を喚起して、大きな事故につながらない様に努力している。



項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣へ協力を依頼している。定期的に防災訓練をしている。	○	緊急時のマニュアルが見やすいところに貼ってあるが、夜間の災害時は、夜勤者2名で対応しなければならないので、不安がある。繰り返し訓練する必要がある。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	何でも、事前に話していくようにしている。拘束をしない方針を入所時から説明し、転倒や骨折等起こりうるリスクについても了承を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、食事・水分摂取表、排泄管理表をつけ、また、心身の異常の早期発見に努めている。異常があれば、管理者に報告、職員全員に情報が行き渡るようにしている。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方された薬の説明書を綴じて、いつでも見られるようにしている。医師や薬剤師による指導や注意、薬変更時の様子観察等、医療関係連絡ノートに記し、分かるようにしている。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表をつけ、その人の排泄パターンを知り、予防する方法として、水分摂取や、食物繊維の多いものをとるようにしたり、体を動かす様にし、便秘を防ぐように支援をしている。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に1回、訪問歯科による、口腔チェックとケアを受けている。指導に基づき食後の口腔ケアの声掛け、見守り、出来ない人には介助している。義歯や、歯磨き道具の洗浄や、衛生管理は職員が行う。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で、分かるようにしている。摂取量が少ない時や体調により、食せない時は、うながしたり、摂れるものに代える。必ず、申し送り、職員全員で把握している。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがある。インフルエンザの予防接種を全員受けている。	○	手洗い、うがい、マスクの着用。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理に気をつけている。食材管理は、キッチン担当の職員が行う。		

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	東屋があり、くつろいだりお茶を呑んだりできる。花や植木、畑があり、共に楽しめる。家族の方の協力があり、きれいになっている。	
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に写真を貼り、行事を振り返ったり、利用者や家族との会話の糸口を作ったり、季節ごとに飾り付けを替え、その時の季節を感じ取れるようにする。共有の空間は、落ち着ける場所であるように不快に感じるものは除去する。	
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを置き、落ち着いて座れるようにしている。	
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や道具を持って来て、その人らしい部屋作りをしている。	
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に気をつけている。加湿器や空気清浄器で、乾燥しないよう気をつけ、温度調節は、こまめに行っている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレ、浴室等必要なところには、手摺りをつけている。	
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の出入り口には、表札や、目印を付け、間違えないようにしている。トイレや浴室等よく行く場所も、大きく書いて分かるようにしている。	
87		建物の外周や空間の活用	建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭のベンチやあずまや、2階のベランダも皆で、お茶を飲んだり、歌を歌ったりすることができ、庭の植物で、四季を楽しめる。	

(様式1)

## 自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己評価	外部評価	タイトル	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98		職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない